

まちづくり 提言書

令和6年2月14日

令和5年度水戸市市政モニター

目 次

まちづくり提言書について 2

【第1部】

私達が理想とするまちの姿 3

【第2部】

理想のまちを実現するための課題と取組 . . . 17

(資料)

市政モニター活動内容 37

市政モニター名簿 39

まちづくり提言書について

私たち市政モニターは、「水戸市の移住・定住促進のまちづくり」をテーマと定め、皆から選ばれるまちについてこの1年間研究し、提言書としてまとめました。

この提言書は、初めにこれからも暮らしたいと思えるような、「私達が理想とするまちの姿」を描き、次に、「理想のまちを実現するための課題と取組」を挙げています。

理想とするまちの姿については、全国共通で大事な視点からの「インクルーシブでHeartfulな水戸」、水戸市独自の視点からの「住みつづけたくなる水戸」、水戸市を越える広域的な視点からの「日本で一番輝くまち水戸」という3つの小テーマごとにまとめています。

私達が理想とするまちの姿は、次のとおりです。

インクルーシブでHeartfulな水戸

- 【提言1】みんながつながれて、みんなが活躍できるまち・・・・・・・・・・ 4, 18
- 【提言2】障害児・障害者も安心して生活できる水戸市・・・・・・・・・・ 7, 22
- 【提言3】こどもの多様な学びの機会と、それを支える大人の拡充ができた水戸市・・・・ 8, 23
- 【提言4】子育て世代に寄りそい一緒に子どもを育てていくまち・・・・・・・・・・ 10, 25

住みつづけたくなる水戸

- 【提言5】水戸駅周辺で生活が完結！
共働き子育て世帯の住みやすいコンパクトシティ水戸・・・・・・・・・・ 12, 28
- 【提言6】高齢移住者に魅力的な歴史都市みと・・・・・・・・・・ 14, 31

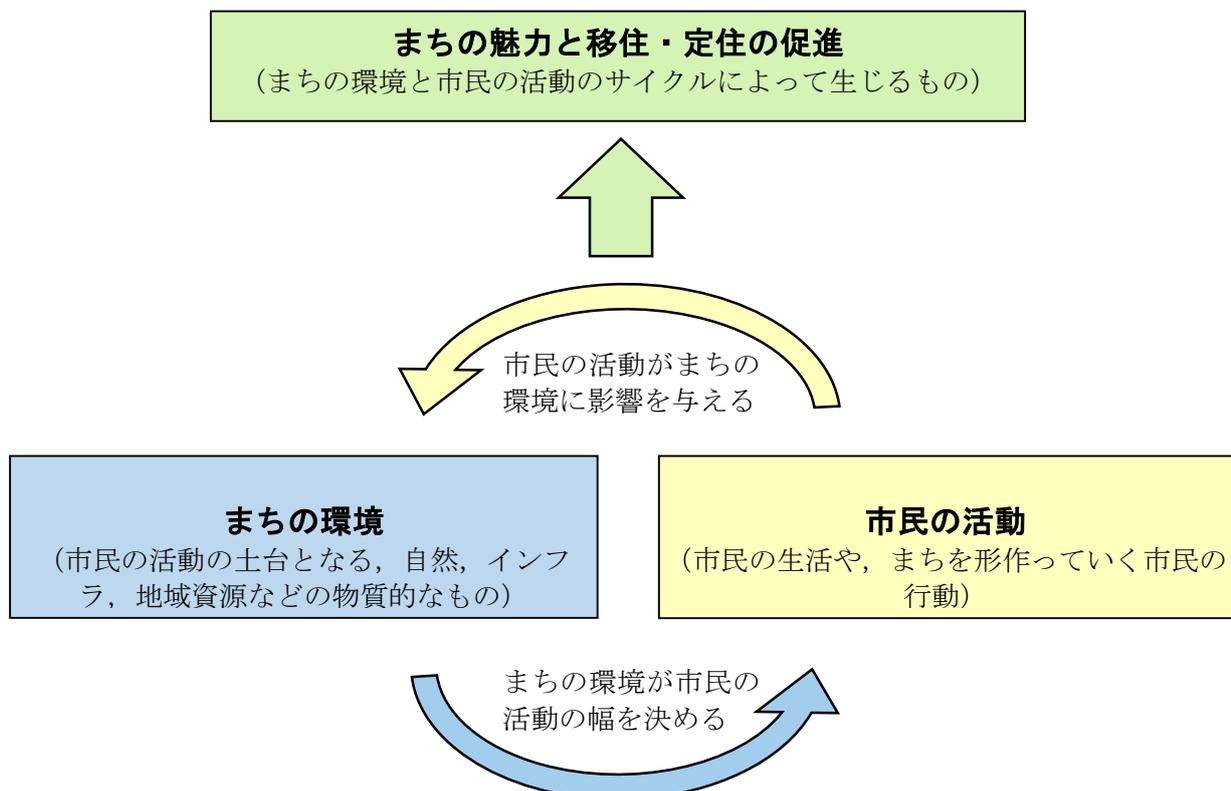
日本で一番輝くまち水戸

- 【提言7】「サステナブルに誰もが平等・公平に安心して、子どもを育てられるまち」・・・・ 15, 32
- 【提言8】魅力、発信力のある水戸・・・・・・・・・・ 16, 35

【第1部】 私達が理想とするまちの姿

第1部の見方

本提言書では、社会全体を「まちの環境」（自然、インフラ、地域資源などの物質的なもの）と「市民の活動」（市民の生活や、まちを形作っていく市民の行動）の循環構造と捉え、その循環によって「まちの魅力と移住・定住の促進」が生じるものとしています。これに従い、理想とするまちの姿を記載しています。



【提言1】みんながつながれて、みんなが活躍できるまち

・まちの環境について

私が理想とする水戸市は、こどもから高齢者までが交流を通して住みやすいと感じることができるよう、住環境がつくられています。

このまちには、多世代にわたる市民同士が交流を行うための、「(仮称)ハーモニー広場」が市内の中学校区に一つずつあります。

ハーモニー広場は、木を使用した建物のため自然を感じられる造りとなっているとともに、気軽に勉強、文化・芸術活動、飲食などを楽しめるように、設備や機材等がある小規模な屋内施設です。

水戸市では、ハーモニー広場の他にも農作業を行える農園や日常の困りごと（体調不良の際にどの病院に行けばいいかなど）を相談できる施設も交流拠点として生活圏内に整備されています。これらの交流拠点は学校や市民センターなどが兼ねていることもあり、車やバスでのアクセス性に優れた施設となっています。

加えて、このまちには市民同士で互いに助け合いやすいようにするための仕組みとして、「(仮称)みとちゃん困りごと」がインターネット上に整備されています。

これはバイトの求人みたいに困りごとや助けしてほしいことをあげ、それを助ける人達を繋げられるシステムです。システム上では、幼稚園や各地域ごとなど自分が所属しているカテゴリなどによってグループ分けされているため、身近な人同士での交流が行えるようになっていきます。

「みとちゃん困りごと」は、支援を求めるだけでなく、支援をする人も利用者として登録するものであり、また、利用者間で情報共有がされることで困りごとが可視化され支援が増える仕組みとなっています。

この「みとちゃん困りごと」は、信頼性や安全性を保つために、行政が有料サービスとして運営・管理しています。このことから、市民が今、どのような困り事を抱えているかを行政が把握し、支援策の立案につながる場としての機能も持っています。

・市民の活動について

水戸市民は地域への関わりが積極的なため、近隣住民たちの地域コミュニティが活性化しています。特に、ハーモニー広場などでは、第3の居場所として様々な交流活動が行われています。

こうしたコミュニティでは「皆でいきいきと生活する」、「自分の特技を磨き、周りに活かす」という考えが共有されており、社会人・学生・こども・高齢者・障害のある方、外国人など、多種多様な人たちの交流が行われています。

こうしたコミュニティ活動は地域の人によって主体的に運営されており、誰でも参加したり運営したりすることができるようになっています（参加しやすい時間帯に開催されたり、無料で開かれる等）。また、一人で自由に利用できるとともに、月に2回程度イベントが開催される等、定期的に交流を促す機会が設けられています。

さらに、こうしたコミュニティが集まる水戸市は、「皆で助け合い、支え合う」という考えが共有されており、何かあった時は近くの人がすぐに駆け付けてくれるようになっています。

地域コミュニティにおける「皆でいきいきと生活する」ことについては、例えば次のようにそれぞれの人が自分の趣味嗜好に応じて、誰でも気軽に交流できる活動をしています。

活動例として、ハーモニー広場内のカフェでランチ、季節行事、手作り玩具の作成、レクリエーション（ボードゲーム等）、地域の文化や歴史の伝承、昔遊び、スポーツ、ヨガ、ワークショップ等が行われています。

「自分の特技を磨き、周りに活かす」ことについては、例えば次のように、自分らしく自己を表現し、自らの成長や他者との共感の輪を生む文化芸術活動等を行っています。

活動例として、歌やダンスやピアノ演奏などの音楽活動、映像作品の制作、アーティストやクリエイターの作品展示、アーティスト同士のミーティング、環境保全活動、地域経済発展のための意見交換等が行われています。

さらに、歌やダンスの成果や学びを市民会館などで発表するなど、コミュニティを越えて、市全域でも交流が行われるようになっていきます。

また、「皆で助け合い・支え合う」考えを持った水戸市民は、例えば次のようにそれぞれの困りごとを持ち寄り、互いに相手の役に立とうとする活動をしています。

活動例として、家の掃除、こどもの送迎や預り、病院の付き添い、買い物の支援、インターネットなどの知識の共有等が行われています。

これらの活動は、上記の「みとちゃん困りごと」を活用することで、ある時は助けてもらう側、またある時は助ける側となって、困った時にはお互いに助け合うことをしています。

なお、この「みとちゃん困りごと」は、多少金銭を負担することもあるため、助ける側は責任を持って支援をしています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちは、助け合いや支え合いの心が育まれ、それぞれの人がお互いに共感し認め合っているため、孤立とは無縁な、心が休まる安心なまちです。

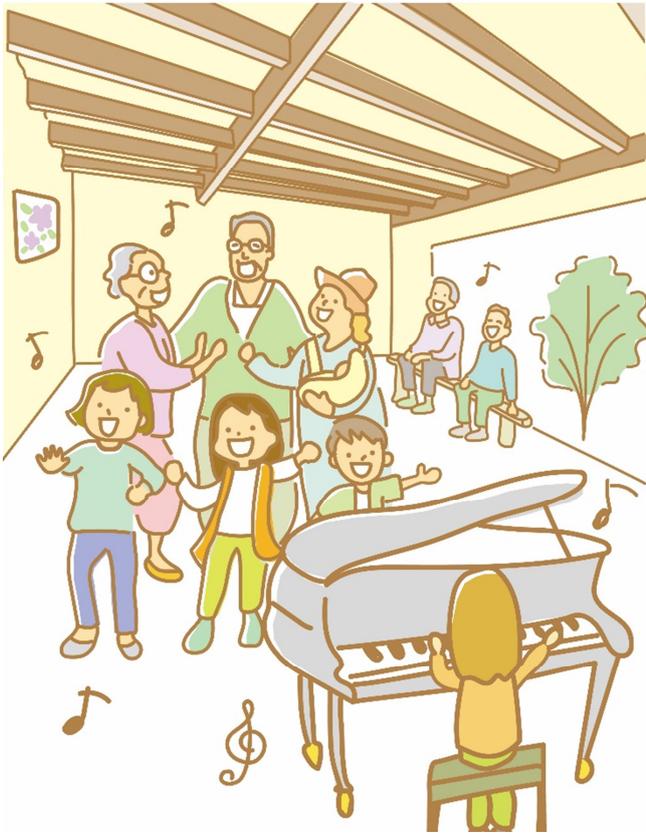
また、多様な人々との交流や、多彩な文化・芸術活動に触れることができるため、表情豊かなまちの中で達成感や感動を味わえたり、心動く体験ができるまちともなっています。

特に子どもたちはハーモニー広場において、文化芸術という、言葉以外の表現方法での交流を通して、多様な価値観や新たな自分を発見しており、誰かを助けるために自分で考えて行動できるとともに、自分を適切に表現できる自立した大人へと成長しています。

以上のまちの水戸市民は、一人一人が地域を支え合う仲間として地域から必要とされる人材になることができるため、誇りを持っていつまでもいきいきと暮らすことができ、世代を問わず住みやすいと感じています。そして、市民はお互いの考えを受け入れ、改善し、一緒に考え、挑戦しながら水戸市全体を成長させていく、皆でつくりあげるまちとなっています。

また、お互いが相手のために、「for you」という気持ちを持って温かく支え合い、地域としての一体感のあるまちは都心ではなかなか経験できず、一生涯住みたいと思えるまちとなっているため、移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP18に記載します。



・まちの環境について

私が理想とする水戸市の環境は、障害のある人たちが日々の生活を送るために必要とする施設等が充実しており、それぞれの障害の実情に応じたサービスが提供されています。

まず、障害福祉施設については、年齢や障害の種類に関わらず、障害のある全ての人たちへ対応できるように、児童施設（放課後デイサービス等も含む）、成人施設、診療所などが一体的に運営され、総合的な対応が行われています。

また、まちに出てみれば、障害施設に限らず、あらゆる施設で車いす駐車場や広いエレベーターがあるなど、障害者にも優しいバリアフリーが充実しています。

・市民の活動について

上記のまちの中で、水戸市民は互いに助け合う精神を持って生活しています。また、障害のある人とない人の交流も活発に行われているため、お互いを良く理解し、お互いの立場を尊重し合っています。

例えば障害福祉施設においては、こどもを持つ親同士の交流による情報交換が図られているほか、親自身の希望で療育活動へも参加しています。

加えて、障害福祉施設を基盤として、PT、OT、ST、医師、保育士、看護師などの福祉に係る人たちが一体的に連携して支援しており、特に、医療分野については、時間帯や対象年齢を問わず支援しています。

このまちのバリアフリーは、ハード・ソフト両面から展開されているため、障害者の実情を踏まえた支援など、施設設計等に限らない広い視点を取り入れられています。

例えば、花火大会の時には、大きな音や人ごみが苦手であったり、じっと待つことができない人たちのために、花火の見える屋内施設（障害者が利用しやすいもの）が優先的に開放されています。

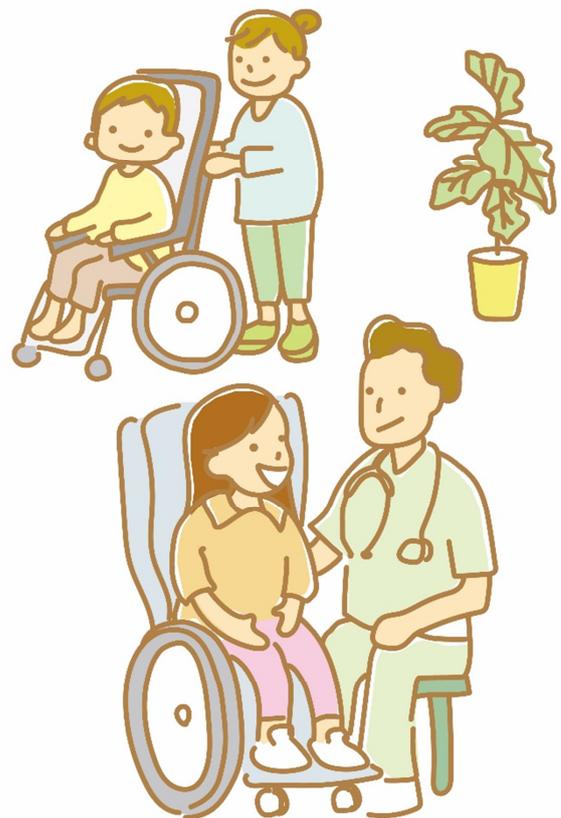
・まちの魅力と移住・定住の促進について

このような水戸市では、障害のあるなしに関わらず互いに支え合っているため、障害のある人たちだけでなく、それを支える人たちも皆が日々の暮らしに安心して生活でき、長期的視点から明日への希望を持って生活できています。

そのため、他市町村からも多くの人をひきつけ、移住・定住が促進されています。

さらに、水戸市が変われば他の市町村も変わるような、茨城県をリードするまちとなっています。

このまちを実現するための課題と取組をP22に記載します。



【提言3】子どもの多様な学びの機会と、それを支える大人の拡充ができた水戸市

・まちの環境について

私が理想とする水戸市は、まちぐるみでこどもたちへの教育を行っていることから、こどもたちはまち全体で学んでいける環境となっています。

このまちでは、学校施設に加えて、歴史・芸術・知識などに関する、こどもの成長につながる施設(歴史館、水戸芸術館、近代美術館、教育学部・学科を有する大学、スポーツ施設、地域スポーツクラブなど)もこどもたちの教育を行う機関として位置づけられており、各学校と十分な連携がとられています。

また、不登校となった児童・生徒への対応として、適応指導教室(うめの香ひろば)や民営フリースクールのように、学校以外でも学校教育を学べる場も設けられています。

この他、森林公園や逆川緑地、偕楽園公園四季の原など、こどもたちが伸び伸びと遊ぶことができる自然環境もあります。

しかし、水戸市は日本で比較的良く見られる気候のため、夏の暑さや冬の寒さ、梅雨の時期の雨など、こどもが外で遊びにくい時期もあります。こうした気候に対応するように、いつでも遊べるように冷暖房が設置された屋内施設が整備されています。

・市民の活動について

このまちでは、小学校から中学校の全学年において、教員が一人一人の実情に応じたきめ細かな対応を行っているとともに、児童・生徒が複数の教員と交流して多様な価値観に触れることができる機会が充実しています。

さらに、通常の授業の他にも、大学教授による質の高い専門的な授業や、精神的な距離の近い大学生による共感しやすい授業、地域の人による学力向上サポーターなど、様々な人々が小中学校の教育に関わっています。こうして、様々な人々が小中学校の教育に関わることを通じて、教員も地域の専門家から知識を得て学びを深めています。

部活動については、基礎体力の向上など、基礎的な能力を楽しく身に付けることを目的に実施されています。そのため、より高い水準の環境を求める生徒たちは、外部のスポーツクラブなどを活用し、練習しています。

この他、学校は上記のような様々な教育人材を活用して、不登校となった人にも学校教育と同様の学びを得られるように、適応指導教室、フリースクール、自宅など、様々な場所で教育を提供しています。

また教育体制については、過度な負担はかえって教育の質を下げってしまう、という考えのもと教員たちが負担の少ない状態で働くことができるように、教員たちはお互いに協力して助け合うとともに、上記のように専門知識を持った地域人材も必要に応じて活用しています。

以上のような学校教育だけでなく、こどもたちは、遊びのように体を動かすことを通しても学び、成長しています。

こどもたちは、自然環境の中では葉っぱや木の棒など、自然の中にあるものを用いた創造的な遊びをすることで、その想像力を育てています。

また、外で遊べない天候の時には近くの体育館などで鬼ごっこ、ドッジボール、縄跳びなど、体を動かす遊びをしています。

併せて、誰でもこうした活動に親しみやすいように、キャンプや各種スポーツなどを教えてくれる人たちが教室を開催しており、水戸市民は家族や友達と一緒に参加しています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このようなまちで育ったこどもたちは、自分で情報や知識を集め、自分で物事を考えられる、真に自立した大人に成長できます。

また、幅広い教育人材たちが生き生きと教えることができているため、質の高い教育が持続的に提供されています。

そのため、こどもの教育に関心の高い親たちから選ばれるまちとなっていることから、子育て世

代の移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP23
に記載します。



【提言4】子育て世代に寄りそい一緒に子どもを育てていくまち

私が理想とする水戸市を描くにあたっては、子育て世帯を、

- ・産前期
- ・産後期（出産～出産後半年）
- ・乳幼児期（出産後半年～3才）
- ・就園児期（3才～就学）

に分けた上で、主に産前期～乳幼児期にかけて記載します。

・まちの環境について

私が理想とする水戸市には、子育て世帯向けの施設がそれぞれのこどもの発達段階に応じて適切に整備されています。

産前期向けの施設としては、子育て情報を集めるために子育て支援センターや市役所があります。

産後期向けの施設としては、生活支援のために病院や産後ケアセンター、産後ヘルパーがあります。なお、産後ケアセンターや産後ヘルパーは様々な運営主体によって運営されています。

乳児期向けの施設としては、子どもへの対応としての保育園や一時保育があり、まちなかには、子どもが遊ぶための屋内施設や子どもと一緒に楽しめる飲食店などがあります。

・市民の活動について

このまちの水戸市民は、共働きでも安心して子育てできるように、子どもが育っていくときの不安や負担に対して上記の施設を活用し、以下のように過ごしています。

産前期は子育て支援センターや市役所を活用して子育てに関する情報を収集しています。また、これらの施設では子育て相談会などが開催されており、積極的に情報発信が行われています。

産後期は出産から半年が過ぎるまで、保育園に子どもを預けたり、産後ケアセンターや産後ヘルパーの家事育児代行サービスを利用することで、出産で弱った体を回復させています。

乳幼児期は保育園や一時保育を活用して計画的に家事などを行う時間を確保しているとともに、他の子育て世帯と交流し、日々の子育てに関する悩みを共有し、有益な情報を交換しています。

その他、親子で遊びに出かけ、個人経営のような飲食店で食事をしたり、ハレニコのように遊具が完備された屋内施設で遊んでいます。このように子どもと楽しく過ごした体験も他の子育て世帯と共有しています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちは、移住者のように身近に頼れる人がいない方も含め、子育て世代が助けてほしい時に必要な支援が選べて、安心して過ごせるまちです。

このまちには、子育てにおいて次のような安心があります。

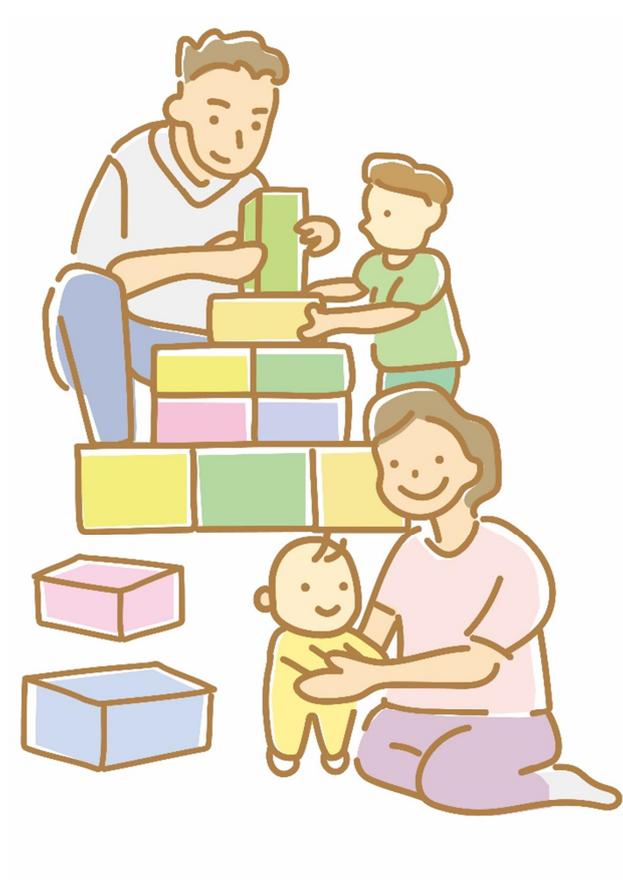
産前期においては、子育てについて知りたい情報を得ることができる安心があります。

産後期においては、出産により体調がすぐれない母親が、他の人を頼れることや体調を回復できる安心があります。

乳幼児期においては、子どもが泣き止まないことや予期できない危険な行動をとることなど、子どもが思う通りにならない状況でも様々なサポートやアドバイス等を受けることができる安心があります。子どもを家の外で遊ばせる時には、他の子どもとの体格差を気にせずいつでも安全に遊ばせることができる安心があります。また、まちなかにある個人経営の飲食店へ子どもと一緒にいくことや他の子育て世帯との交流などを通して、地域になじみ、地域に溶け込むことができる安心があります。

以上のように、一番大変な時期の子育て世帯をまち全体で家族のように協力し助けている事で、水戸市であれば、心身ともに過度な負担が無く安心して子育てができること皆から思われるようになり、移住・定住が促進されていきます。

このまちを実現するための課題と取組を P25
に記載します。



**【提言5】水戸駅周辺で生活が完結！
共働き子育て世帯の住みやすいコンパクトシティ水戸**

・まちの環境について

私が理想とする水戸市は、衣食住と教育施設が完結するエリアが水戸駅を中心に広がっています。水戸駅から歩いて5～10分圏内に住宅があり、複合商業施設があり、教育施設があり、こどもの遊び場があります。そのため、このまちで車を利用するのは、旅行や遠出などのレジャーのときのみで良いようになっています。

複合商業施設は子育て世帯をターゲットとしているため、こどもが大声で騒いでも気にならない、にぎやかな空間となっています。ベビーカーなどを押しても歩きやすい程度に通路の広さが確保されており、こどもの定期健診や親子教室、子育て相談に活用できるスペースもあります。

この施設には、食料品を売るスーパー、日用品を売るドラッグストアやホームセンター、衣料品を売るアパレルショップ、こども用品店、家族で利用しやすいフードコートなどがあります。また、こども向けの室内遊戯施設もあり、雨の日でもこどもは元気いっぱい走り回って遊べます。

施設内には保育園も併設されており、この保育園では平日・休日問わず一時保育にも対応しています。時間制あるいは半日、1日プランがあり、預ける理由は問いません。また、追加料金で食事を依頼することも可能です。この保育園を利用した場合には、前述の遊戯施設も利用できるようになっています。

教育施設は、水戸駅付近に暮らせば小学校から高校まで徒歩で通えるように学校が配置されています。加えて、学習塾や習い事、豊富な蔵書の県立図書館など、こどもの教育に資するその他の施設も駅周辺にそろっています。

県立図書館には、おすすめの図書コーナーや自分で勉強するためのスペースが用意されています。芸術館には、こどもでも自分で絵を描いたり、色を塗ったり、芸術に触れて学ぶことのできる無料常設スペースが用意されています。

なお、大学については水戸駅からバスで通える

程度の範囲にあります。

こどもの遊び場については、前述の室内遊戯施設の他、少し足をのびした先に千波公園があります。これらのエリアは、こどもが一人でも安心して歩けるほど、道が街灯で明るく照らされています。

・市民の活動について

水戸駅周辺に商業・文化的施設が集まり、子育てサービスも充実しているため、市民は平日・休日を問わず次のような豊かな生活を送ることができます。

複合商業施設では、平日に限らず土日も親子教室や子育て相談を実施しているため、平日は仕事で忙しい会社員のお父さん、お母さんも参加しています。健診帰りや保育園のお迎え帰りの親子には、「今日は疲れているからフードコートで晩御飯にしよう」「今日はスーパーで何かおいしいお惣菜を買って帰ろうか」といった会話が見られます。

また、子育て世帯は施設内の保育園に預けることで、ショッピングや映画鑑賞などリフレッシュすることができています。

教育施設は、小学生くらいのこどもたちであれば徒歩や自転車、バスで各施設へ移動できるため、親の送迎を必要としません。そして、小学生以上のこどもたちだけで施設を活用できる工夫がされています。

「みんなで水戸の子を育てよう」という意識が社会的に浸透しているため、まだ言い聞かせてもずっと静かにできないようなこどもと一緒にでも、公共の教育施設や文化施設を楽しむことができます。

例えば、図書館や芸術館では、図書の利用や芸術鑑賞の間、こどもを見ていてくれるサービスがあります。これは平日・土日を問わず利用するため、親も自分の読書や芸術鑑賞を通してリフレッシュしたり学びを得たりできます。

こどもの遊び場は、千波公園があるため、天気の良い日はそこで元気いっぱい遊んでいます。雨の日は前述の室内遊戯施設で遊ぶことができますので、天候問わず、こどもたちはのびのびと体を動かして遊ぶことができます。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちの水戸駅周辺は、車が無くても生活を完結できる利便性があるため、それまで車を持たず生活してきた移住者が、新規に運転免許を取得したり車を購入したりしなくとも、スムーズに新生活を始められます。

都市部からの移住を検討する方は、それまで車を運転したことがない、運転免許すら持っていないという方が多いです。そのような方々にとって、車が無くても生活できるということは車社会の北関東にあって大きなメリットとなります。

「東京ほど人が多くなくて、かつ車が無くても生活に不便が無い(生活を楽しめる)」ということがポイントです。

また、こどもが一人でも安心して歩ける街並みや、保育園と連携した遊戯施設があるなど、他市町村の共働きの子育て世帯から「水戸市に住んだら、私の抱えているたくさんの苦しさがすべて無くなる」と思われるまちのため、共働き子育て世帯の移住が促進され、将来的な税収アップにつながっています。

このまちを実現するための課題と取組をP28に記載します。



【提言6】高齢移住者に魅力的な歴史都市みと

・まちの環境について

私が理想とする水戸市の中心市街地は、歴史を感じられるとともに、生活の利便性が高い場所となっています。

このまちには、弘道館や水戸城跡地を始めとした歴史的資源がまちなかにあるとともに、スーパーなどの日用品を購入できる施設も充実しています。

また、公共交通機関の交通網も充実しているため、中心市街地だけでなく、市内での移動がしやすくなっています。

・市民の活動について

このまちの住民は、水戸ならではの歴史的資源をまちの宝と捉え、老若男女を問わず、生涯にわたって多様な形で水戸の歴史を学んでいます。

例えば、講演会のように水戸の歴史自体を取扱うものや、水戸黄門漫遊マラソンのようにメイン会場を歴史的エリアにする等、イベントをきっかけとして水戸の歴史に興味を持ってもらうもの等があります。

その他にも、家族や友人と水戸市内を散策している時など、日常の中でも水戸の歴史を教え合うことが行われています。

このような活動ができる中心市街地は生活の拠点ともなっているため、水戸市民はこの場所で日々の買い物や普段の宴会も行っており、こうした生活を過ごす上での移動のために公共交通機関を活用しています。

また、以上のように市民が歴史的資源を大切に扱うことを通してまちの活力が生まれていることから、他市町村からも移住を検討している人などが歴史的資源を見学しに来ており、特に高齢者から人気を集めています。水戸市民はそうした移住検討者等のように水戸に興味がある人に接した際に、積極的に水戸の魅力を伝えるような働きかけをしています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

以上のようなまちで暮らす水戸市民は、水戸ならではの魅力を身近に感じることができるため、地域に対する愛着を強く持つことができている。

また、高齢者から強く人気を集めることで、その高齢者から若い世代に水戸の魅力が伝わっていき、世代間でその魅力が共有されています。

そのため、水戸市は他のまちとは違う特別なまちと思われることから、移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP31に記載します。



・まちの環境について

私が理想とする水戸市には、こどもが健全に成長しやすいように、学校や医療機関などの基礎的なインフラの他、社会性を育むための地域資源としての文化施設や千波公園などがあります。

また、子育て世代の働き口及び地域経済の担い手として、日立製作所、原子力関係機関、JR、常陽銀行などの大手企業が水戸市を含む県央地域にあります。

こうした環境を土台として、更にまちを発展させていくために行政機関（水戸市役所など）があります。

・市民の活動について

このまちの子育て世帯は、子育てにあたって学校などの教育施設だけでなく、文化施設や千波公園などの地域資源も活用し、こどもの成長につなげています。

千波公園では、地元の食材を活用したイベントが行われていたり、ジョギングや散歩をする人、親子が広場でのびのびと遊んでいるなど、人々の交流で賑わっています。

水戸市民は、水戸市が茨城県をリードするまちであることを目標として定め、行政機関を活用しています。この目標を受け、行政機関である水戸市役所は他の市町村に先駆ける政策を戦略的に実行するとともに、適宜近隣市町村とも協力することで、水戸市を中心に県央地域を持続的に発展させています。更に、こうした発展によって増加した税収を活用し、また新たな戦略を次々に打ち出すことで、県央地域の発展を更に加速させています。

例えば現時点であれば、既存の子育て支援が行き届かない高所得者から選ばれるためにも、子育て世帯が住みやすいまちづくりとしての少子化対策が戦略上重要であるため、市が「全ての」子育て世代に全面的に寄り添う姿勢を打ち出し、高所得者も子育てしやすいまちをつくることで、多くの子育て世代の移住を促進させています。

こうした政策によって、高所得層の人たちも水戸市に集まり経済活動を行っていることから強い資金循環が生まれており、持続的な経済発展の好循環が実現しています。

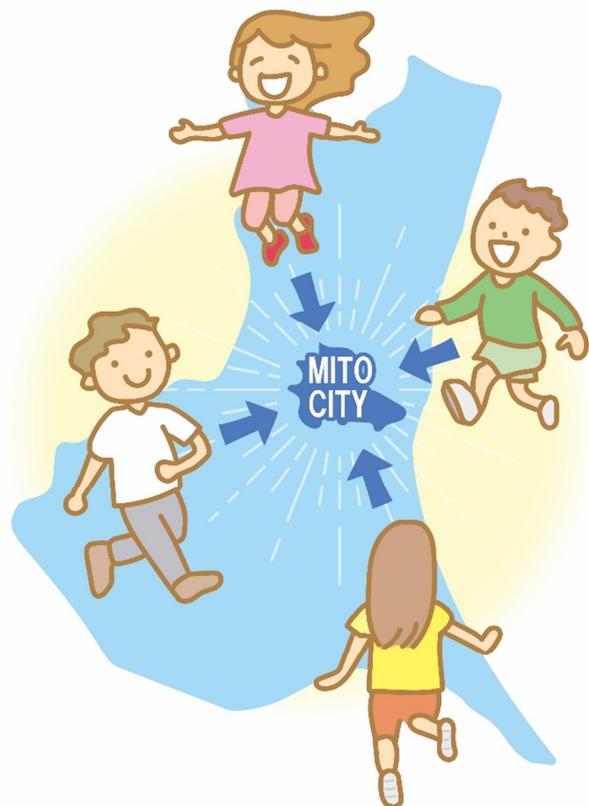
・まちの魅力と移住・定住の促進について

以上のような水戸市は、市民の希望出生率が叶い自然増が高い水準で実現されているとともに、子育て世代を中心に多くの移住者が集まることから社会増も高い水準で実現しています。そのため、こどもが増加することで、自治体や街としての活力が生まれています。

また、広域的な視点から、戦略的かつ先進的な政策が次々と打ち出され、全国的に有名なまちとなっているため、転勤等により県央地域が勤務先となった人を中心に生活拠点として選ばれるまちとなっています。

これらのことから、人口増と経済成長の両輪を柱として、まち全体が持続的に発展しているため、水戸市の移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP32に記載します。



【提言8】魅力、発信力のある水戸

・まちの環境について

私が理想とする水戸市には、SNS（Youtube、Instagram、TikTok、X）などの他、市内のイベントや魅力などを市民間で広く共有できる情報発信ツールがあります。

このツールは、市民から受け付けた情報を、他の市民の方々にも共有できる様な機能があり、スマートフォン一つで気軽に情報を集め、受け身でもどんどん情報を手に入れることができます。

このまちの魅力は、イベント、食、観光などに関するものがあります。

・市民の活動について

水戸市内の魅力の情報を発信する主体は、主にインフルエンサー、市民、行政です。

インフルエンサーは、主にインターネットを活用して、最新の魅力的な情報を分かりやすい形で市民に伝えています。また、ヒカキンのみそきんや、ヒカルのジョイフルとのコラボなどのように、その知名度を活用して民間企業とコラボした商品を生み出すなど、経済を活性化させてもいます。

市民及び行政は、SNSや前述のツールを活用して、市内にある様々な魅力を発信しています。特に、イベントにおける主催者の思いやイベントにまつわる物語を感じることができるような情報を発信することで、さらにその魅力を高めています。

また、水戸市民は普段からSNSなどを使用しており、そこから得た様々な情報を、日々の会話のきっかけにするとともに、休日の過ごし方を決めています。特に、行政から発信される市内の情報は市民の興味をひく面白いものが多いため、その情報の影響力は大きいものとなっています。

・まちの魅力と移住・定住の促進について

このまちで暮らせば、スマートフォン一つで市内にある多種多様な魅力やほしい情報を次々に仕入れることができるため、日々の暮らしを楽しく過ごすことができます。また、他市町村で暮ら

す人も水戸市の魅力を簡単に手に入れることができます。

これらのことから、水戸市は非常に生活のしやすいまちになっているため、移住・定住が促進されています。

このまちを実現するための課題と取組をP35に記載します。

【第2部】

理想のまちを実現するための課題と取組

第2部の見方

第2部は、第1部で描いた理想のまちの姿を実現するための働きかけを、以下のようなロジックに基づき記載しています。

①：第1部で描いた、私が理想とする水戸市の姿の要旨を記載しています



②：①の中から実現したい魅力を選び、目標と定めています



③：②の目標を実現するに当たっての課題を記載しています



④：③の課題を解決するための行政の取組を記載しています

【提言1】「みんながつながれて、みんなが活躍できるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とする水戸市は、多世代の市民同士が交流を行う拠点である、「(仮称) ハーモニー広場」が市内の中学校区に一つずつあります。また、このまちには市民同士で互いに助け合いやすいように、「(仮称) みとちゃん困りごと」という助ける人と助けられる人をつなぐアプリがあります。
- ・水戸市民は「皆でいきいきと生活する」、「自分の特技を磨き、周りに活かす」、「皆で助け合い、支え合う」という考えが共有されており、ハーモニー広場等で自分らしく自己表現出来る文化芸術活動等をするとともに、上記の仕組みを活用してそれぞれの困りごとを持ち寄り、互いに相手の役に立とうとする活動をしています。
- ・このように、まちが文化芸術で彩られ、市民同士が温かく支え合い、地域としての一体感のあるまちは都心ではなかなか経験できず、一生涯住みたいと思えるまちとなっているため、移住・定住が促進されています。

このまちの魅力の一つは「人の役に立っていると実感できるまち」であり、ここではこれを1個目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

困っている人と助ける人がつながるために、周りにヘルプを伝える仕組みをつくる

【課題解決への取組】

助ける人と助けられる人をつなぐアプリ「(仮称) みとちゃん困りごと」を開発する。

このアプリが持つ機能は次のとおり。

- ・バイトの求人みたいに困りごとや助けてほしいことを挙げ、それを助ける人達を繋げることができる
- ・幼稚園や各地域ごとなど自分が所属しているカテゴリなどによってグループ分けされているため、身近な人同士での交流が行える
- ・支援を求める人だけでなく、支援をする人も利用者として登録するものであり、また、利用者間で情報共有がされることで困りごとが可視化されている
- ・信頼性や安全性を保つために、行政が有料サービスとして運営・管理している。このことから、市民が今、どのような困り事を抱えているかを行政が把握し、支援策の立案につながる場としての機能も持っている

なお、開発が難しい場合には、次善の策として民間のツールであるメイアイ (May ii) との連携を図る。

○メイアイ：お互い気軽に助けたり、助けてもらったりできるベンリなアプリ

(札幌市、福岡市、徳島県、宮城県、川崎市などと連携実績あり)

<https://mayii.jp/>

【課題】

困っている人と助ける人がつながるために、誰かの役に立とうとする意識づくりを行う

【課題解決への取組】

水戸公式 YouTube や Instagram において、上記アプリ（みとちゃん困りごと等）の登録方法や実際の活動風景を記録した動画を作成し、周知する。

なお、周知にあたっては以下の点に留意することで、誰かの役に立とうとする意識づくりを図る。

- ・活動内容をイメージしやすくする
- ・「自分でもできる」という自信を持ってもらえるようにする
- ・1分ほどで見やすいようにし、空き時間や自己啓発に活用できるようにする



スマホでつながる、たすけあいアプリ

ほんのちょっとした困りごとで他人に助けを求められない。

困ってるのかな？と思っても声をかける勇気がない。

道に迷ったとき、大きな荷物で困ったとき、助けてもらえたらホントにうれしい。

旅行者や訪日外国人、高齢者や障害のある人なら、もっとそう思ってる。

お互い気軽に助けたり、助けてもらったりできるベンリなアプリ

それが“ **mayii** (メイアイ)”です。



参考 メイアイについて

※メイアイホームページ
<https://mayii.jp/>

2個目の目標は「孤立を感じず、一生涯住みたいと思えるまち」とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



【課題】
 近隣住民同士で気軽に交流できるようにするため、皆が楽しめるイベントの開催を支援する

【課題】
 近隣住民同士で気軽に交流できるようにするため、皆が楽しめるイベントを周知する



【課題解決への取組】
 地区会が身近な地域内で気軽に誰でも参加できる活動を行う場合、活動への支援を行う。
 なお、支援にあたっては、地域内で孤立している人が参加しやすいような工夫をしていることを条件とする。

活動例	カフェでランチ, 季節行事, 手作り玩具の作成, レクリエーション (ボードゲーム), 地域の文化や歴史の伝承, 昔遊び, スポーツ, ヨガ, ワークショップ等
支援例	公共施設の利用の優遇 (利用料無料や優先的予約等), 活動への補助金の交付, 講師の派遣・紹介等
工夫例	孤立している人は自ら地域活動を調べたり参加したりする可能性が低いことを踏まえ, 担当者が各世帯を訪問したり, ヒアリングを行って孤立している人に参加を呼び掛けている等

【課題解決への取組】
 上記のようなイベントやそのコミュニティをポスターや市公式SNS等で周知することに協力する。
 協力例：公共施設での周知の協力, 民間施設へポスター等の掲示依頼をする時に市の名義で依頼する, 市公式SNSでの発信等
 なお、周知にあたっては孤立しがちな人をターゲットとし、ターゲットに合わせた場所での周知が重要になるため、以下のとおりターゲットと周知場所を想定する。

ターゲット	周知場所
移住者	市役所, スーパー
子育て世帯 (特に未就学児等小さな子どもがいる世帯)	保育園・幼稚園, 子育て支援センター
60～70歳程度で一人で家にいる時間が多い人	スーパー, 近くのクリニック

3個目の目標は「まちが文化芸術で彩られて表情豊かになること」とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



<p>【課題】 市民が文化芸術活動をしやすい環境にするため、身近なところに特技を活かせる場をつくる</p> <p>○課題の背景 民間施設は全国的に場所が限られている上に、利用料金が発生してしまう。</p>	<p>【課題】 市民の文化芸術活動が活発に行われるようにするため、活動に参加したくなるきっかけをつくる</p>
---	--

<p>【課題解決への取組】 市民センターに以下の物を置き、市民が利用できるようにする。 これにより、市民が気軽に自らの文化芸術に関する特技を活かしやすくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ・琴・ギターやウクレレなどの弦楽器、タンバリン・カスタネット・カホン(ダンボールのカンホン)などの打楽器、カリンバ・トーキングドラムなどの自作できる楽器 ・歌本、歌謡1001上下巻 	<p>【課題解決への取組】 市内小中学校において、上記取組の楽器等を活用した展示会・演奏会を開催する。 この展示会・演奏会では生徒・児童が楽器に触れたり生演奏を聴く体験ができるものとし、実施可能な限り開催する(月に数回程度)。 興味関心の幅が広いこどもにきっかけを提供することで、文化芸術活動へ夢中になってもらうことが期待できる。 なお、実施にあたっては、市民の中から演奏できる講師役を募集し、適宜音楽の授業と連携し、授業内容の充実も図る。</p>
<p>【課題解決への取組】 飛び入り参加もできる音楽イベント(オープンマイク)を市民センターで開催する。 海外発祥のこのイベントは、予約不要で会場に来た順にエントリーしていき、楽しく人前で演奏等を披露するとともに、音楽に合わせて自由に踊ったり歌ったりすることができるものである。なお、カラオケ音源を流して歌うだけでもいい。 開催にあたってはイベントを盛り上げるために、人前で話すのが好きな方、楽器伴奏できる方、イラストが得意な方等を進行係(ホスト)として配置する。 これらのことにより、音楽を奏でたい人、聴きたい人ともに楽しむことができるようになり、イベントの後も文化芸術活動に参加したくなる気持ちを高めることができる。</p>	



参考 自由に楽器を利用できる施設のイメージ

※レンタルスペース SLOWHAND
<https://slowhand.space>



参考 楽器を体験できるイベントのイメージ

※一般財団法人 民主音楽協会 キッズ楽器体験展
https://www.min-on.or.jp/topics/detail_1414_.html

【提言2】障害児・障害者も安心して生活できる水戸市

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とする水戸市の環境は、障害のある人たちが日々の生活を送るために必要とする施設等が充実しており、それぞれの障害の実情に応じたサービスが提供されています。
- ・水戸市民は互いに助け合う精神を持って生活しており、障害のある人とない人の交流も活発に行われているため、お互いをよく理解し、お互いの立場を尊重し合っています。
- ・このまちは、障害の有無に関わらず互いに支え合っているため、皆が日々の暮らしに安心して生活ができています。そのため、他市町村からも多くの人をひきつけ、移住・定住が促進されています。



このまちの魅力の一つは「皆で助け合い、誰もが安心して暮らせること」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



【課題】

障害を持つ人への多面的な支援環境をつくるため、総合的な福祉施設をつくる

○課題の背景

現状の民間の医療センター等では不十分である。

【課題】

保護者間の協力関係をつくるため、保護者間の交流を促進する

【課題解決への取組】

姫路市のルネス花北を参考に、以下の機能を備えた総合的な福祉施設をつくるにあたっての補助金を交付する（市営でも可）。

- ・PT, OT, ST, 医師, 保育士, 看護師などの福祉に係る人たちが一体的に連携していること
- ・未就学児や18歳以上でも受け入れ可能であること
- ・障害の程度に応じて自立を促すこと
- ・教育（学習）環境があること
- ・放課後デイサービスを実施すること
- ・住居としても利用可能であること
- ・定期的に保護者たちを集め、保護者たちと子どもが共に一日を過ごす取組が行われていること
- ・夜間に体調を崩した子どもを受け入れられること



※ルネス花北

<https://www.city.himeji.lg.jp/bousai/0000004821.html>

参考 姫路市の障害福祉事業

・療育手帳（A） 年3万, 身障手帳 年1～3万, 重度障害者（児）介護手当 月約1万（親に）、動物園で障害児向け無料開放デー有り

【提言3】 こどもの多様な学びの機会と、それを支える大人の拡充ができた水戸市

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とする水戸市では、学校施設だけでなくまち全体で学んでいける環境となっており、登校・不登校に関わらず、学校以外でも学校教育を学べる場が設けられています。
- ・このまちでは、教員がきめ細かな生徒指導を行うとともに、児童・生徒は多様な価値観に触れることができる機会が充実しています。部活動は、基礎的な能力を楽しく身に付けることを目的に実施されています。また学校は、不登校となった児童・生徒にも学校教育と同様の学びを得られるように、様々な場所で教育を提供しています。
- ・このまちで育ったこどもは真に自立した大人に成長できるとともに、教育人材たちが生き生きと教えることができているため、質の高い教育が持続的に提供されています。そのため、こどもの教育に関心の高い親たちから選ばれるまちとなっており、移住・定住が促進されています。



このまちの魅力の一つは「教員が生き生きと働けること」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



【課題】

勤務時間にあった仕事量にするため、クラス担任に係る負担を減らす

○課題の背景

次ページ記載の図1のとおり、教員が担任を持つことになると業務量が明確に増えることが読み取れる。

また、図2のとおり直近の傾向として、担任の業務のうち、不登校児童生徒への対応の負担が急増している。

なお、図3のとおり、水戸市も同様の傾向にある。

【課題解決への取組】

クラス担任を持つこと自体の負担の削減に向け、全員担任制を小中学校で取り入れる。

全員担任制とは、担任を固定せず、学年の教員が交代で担任の業務を行うもの。学級を担任する教員が代わるサイクルは、数日・1週間・2週間・1カ月など、そのときの学年・学級の状況に応じて変わる。また、生徒・保護者が相談しやすい教員を選んで面談ができるようにするもの。

これらのことにより、様々な業務に複数の教員が連携して対応することができるため、教員の得意分野を踏まえた負担の分担が可能になる。また、新しく教員を採用しなくても実行できる場合がある。

参考：取手市では令和2年4月から採用している。

https://www.city.toride.ibaraki.jp/koho/shise/kohokocho/kohoshi/kohotoride/2020backnumber/documents/koho_toride_200315_p2.pdf（広報取手 令和2年3月15日号）

【課題解決への取組】

喫緊の問題である、不登校児童生徒への対応の負担の削減に向け、以下のように、スクールカウンセラーが教師をサポートする幅を増やす。

- ・生徒が保健室などへ登校した際には、必ずスクールカウンセラーが声かけなどの対応をできるようにする。
- ・その他、心理的対応が求められる相談などの実施。
- ・家庭環境や生徒の状況に合わせて、ソーシャルワーカーなどにも連携を図る。

不登校ぎみの生徒の中には、学校には来れるが自分のクラスには行けない子もいるため、そうした生徒にはスクールカウンセラーやソーシャルワーカーが対応し、完全に学校に来れない生徒には教師が対応するという役割分担を行うことで教師の負担を減らす。

図 1

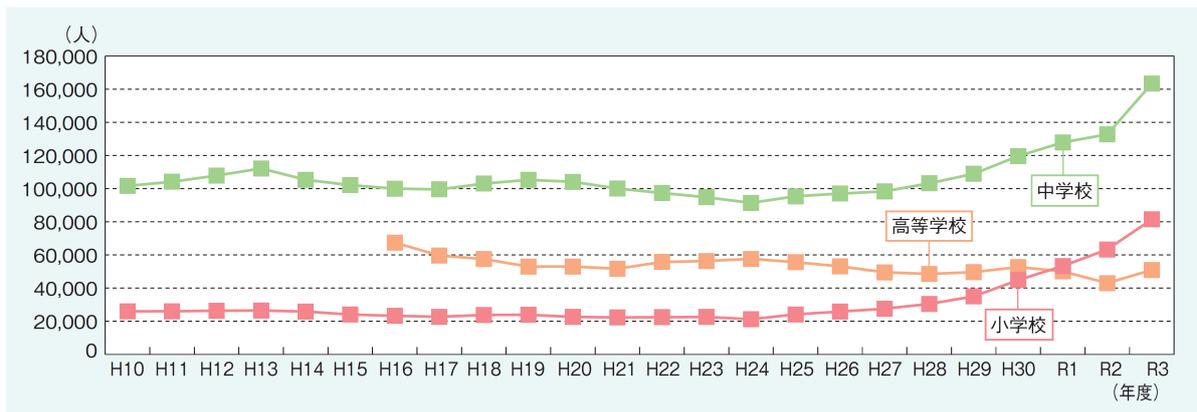
教諭学級担任等の担当別在校等時間（平日）



※文部科学省 「教員勤務実態調査（令和4年度）の集計（速報値）について」 から作成。
https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt_zaimu01-000029160_2.pdf

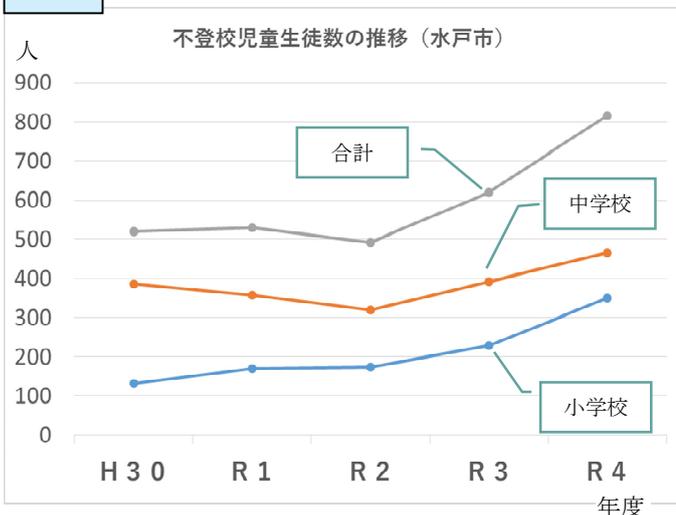
図 2

図表 2-4-12 不登校児童生徒数の推移



※文部科学省 「令和4年度 文部科学白書」
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab202001/1420041_00015.htm

図 3



不登校児童生徒数の推移（水戸市）

年度	H30	R1	R2	R3	R4
中学校	387人	358人	319人	392人	465人
小学校	133人	170人	174人	228人	350人
合計	520人	528人	493人	620人	815人

【提言4】子育て世代に寄りそい一緒に子どもを育てていくまち

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

前提として子育て世帯を、産前期、産後期（出産～出産後半年）、乳幼児期（出産後半年～3才）、就園児期（3才～就学）に分けます。

- ・私が理想とする水戸市には、子育て世帯向けの施設が、産前期、産後期、乳幼児期、就園児期のそれぞれの段階に応じて適切に整備されています。
- ・このまちの水戸市民は、共働きでも安心して子育てできるように、上記の施設を活用して子育てに関する支援を受けることで不安や負担を解消しています。
- ・以上の水戸市では、一番大変な時期の子育て世帯をまち全体で家族のように協力して助けている事で、水戸市であれば、心身ともに過度な負担が無く安心して子育てができることと皆から思われるようになり、移住・定住が促進されています。

このまちの魅力の一つは「過度な負担が無く子育てができるまち」であり、ここではこれを1個目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

産後期の母親の体調不良を防ぐため、体を休める時間を増やす

【課題解決への取組】

産後ヘルパーの事業者及びその利用者に補助金を交付する。

これにより産後ヘルパーの利用を促進することで、産後ヘルパーが自宅での家事・育児をサポートし、産後期の母親が療養できる時間をつくることができる。

これは特に、移住者のように身近に頼る人がいない人に効果的と考えられる。

【課題解決への取組】

妊娠中から産後半年の間において未就園児を持つ親は、就労状況に関係なく保育園にその未就園児を全て入園させることができるようにする。

これにより、養育が必要な未就学児を保育園が預かることで、妊娠中から産後の体調変化で安静にするべき母親に休息を与えることができる。

併せて、母親が急に入院になってしまったときなど、不測の事態の時にも預け先があることで父親の就業の助けにもなる。

【課題】

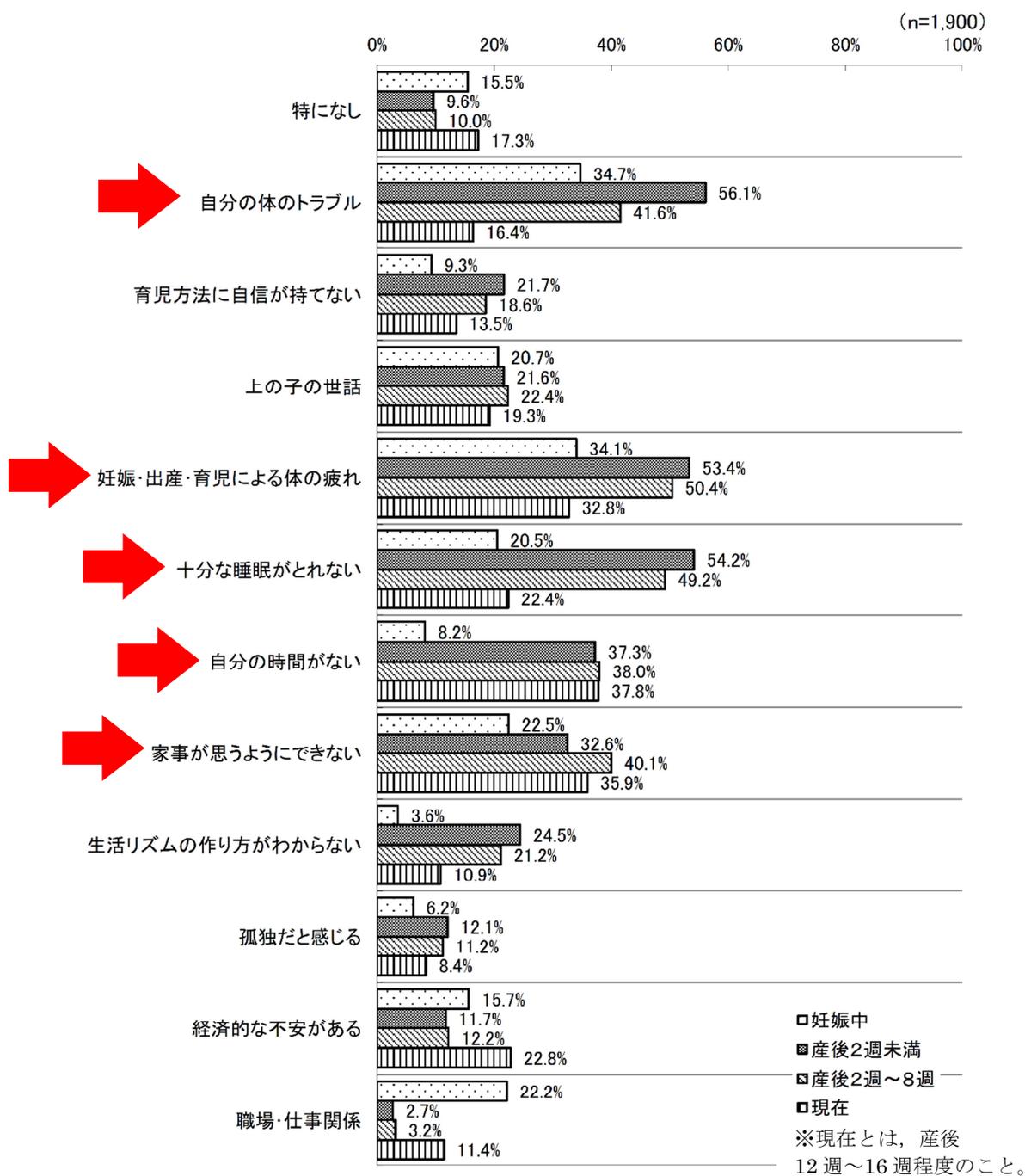
乳幼児期に親が心身に余裕を持って育児ができる生活を送るため、家事などへの支援を充実する

【課題解決への取組】

未就園児一人当たり、一時保育を無料で利用できるチケットを3枚程度配布する。配布する時期は新生児訪問の際とし、未就園児がいる転入者については、転入時に配布することとする。

一時保育を利用することで自分の時間が確保できるため、家事や休息などを無理なく行うことができ、育児に向けた心身の余裕を持つことができる。

図表 2-100 今回の妊娠・出産、産後期間に感じた不安や負担(Q4) (複数回答)



以上のグラフから、出産直後は体自体に関する負担が重視されること、また、時間がたつにつれ自由に行動できないことへの負担が重視されることが読み取れる。

※厚生労働省 平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

「妊産婦に対するメンタルヘルスケアのための保健・医療の連携体制に関する調査研究」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163860_00001.html

2 個目の目標は「社会復帰に向け、安心して子育てができるまち」とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



【課題】

乳幼児期に親が社会的な生活を送るため、養育の不安や負担を解消する

【課題解決への取組】

市役所で保育園申請方法の説明会を月 1 回程度実施する。対象者は妊娠期間中を含む保育園入所希望者とし、託児サービス付きで実施する。

これにより、育児休暇明けに保育園入所手続きを行うための情報が得やすくなるため、養育の不安が解消されて社会復帰の準備を進めることができる。

【課題解決への取組】

保育園入所にあたって、兄弟が同じ保育園に通える制度を作る。

これにより、通園等に関する様々な負担が軽減されることで、親の就労に向けた準備の時間を作ることができる。

また、複数の子どもを別々の保育園に通園させる際に生じてしまう、こどもの車への置き去り事故等を防ぐこともできる。

(参考)

兄弟で同じ保育園に通える制度については、京都市に事例有（下記参照）。

(市長記者会見資料)



令和 5 年 9 月 6 日
京都市子ども若者はぐくみ局
幼保総合支援室
電話：075-251-2390

＼令和 6 年 4 月から／

保育利用に係るきょうだい同一園入園を最優先にします

京都市では、年度当初の保育所等 10 年連続待機児童ゼロを達成するとともに、保育利用を希望される方の 85%の方が第一希望の園に入園されています。

この度、子育てに係る負担が大きい複数のお子様がおられる御家庭への支援の更なる充実を図るため、令和 6 年 4 月保育利用分から、きょうだいで同一園の利用を希望される場合、御希望の園に受入枠があれば、きょうだいの同一園への入園を最優先にします。

※京都市 子ども若者はぐくみ局（市長記者会見資料）
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hagukumi/page/0000316800.html>

**【提言5】水戸駅周辺で生活が完結！
共働き子育て世帯の住みやすいコンパクトシティ水戸**

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とする水戸市は、衣食住と教育施設が完結するエリアが水戸駅を中心に広がっています。そのため、このまちで車を利用するのは、旅行や遠出などのレジャーのときのみで良いようになっています。
- ・水戸駅周辺に商業・文化的施設が集まり、子育てサービスも充実しているため、市民は平日・休日を問わず豊かな生活（子育て・教育・食事・娯楽など）を送ることができます。
- ・このまちの水戸駅周辺は共働き子育て世帯にとって生活しやすいコンパクトシティが形成され、水戸市全体へ影響を与えるエリアとなっています。これが評判を呼び、「水戸市に住んだら、私の抱えているたくさんの苦しさがすべて無くなる」と他市町村の人たちから思われることで、共働き子育て世帯の移住が促進されています。

このまちの魅力の一つは「移住してきた共働き子育て世帯でも暮らしやすい水戸駅周辺」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

住民の生活に必要なものが全てそろそろ施設をつくるため、住民の合意形成を図る。

○課題の背景

食品や生活用品、衣料品など、生活に必要なものが水戸駅周辺で揃わない。水戸駅内のスーパーは週末のまとめ買いをするには品数が足りない。こども用品を買うにもしまむらくらいしか無い。欲しいものを探しに行っても、見つかることが無いので、結局車でショッピングセンターなどに出て行かざるをえない。

【課題解決への取組】

生活に必要なものは全てそろそろ施設をつくるにあたっては、主要顧客を子育て世帯に設定した上で、民間コンサルなども活用しながら、統一した都市計画を作成し、開発することが考えられる。

こうした都市計画を住民合意の下進めるために、タウンミーティングを開催する。



参考 ヒタチエ（日立市）

施設構成：いばらきコープ（スーパー）、日立市役所の駅前出張所（行政窓口）、無印良品（冷凍食品コーナー含む。水戸駅には無い）、フードコート、ハレニコ（全天候型屋内遊戯施設）



参考 トナリエつくばスクエア（つくば市）

施設構成：ロピア（スーパー）、フードコート、アカチャンホンポ（こども用品店）、保育園、GAP（アパレル）

【課題】

幼いこどものいる家庭でも家族で心地よく過ごせるようにするため、子連れで訪れたい場所を増やす

○課題の背景

図書館や水戸芸術館など、親に子どもをおとなしくさせておくように期待(要請)する場所が多く、聞き分けられるような年齢の子どもでなければ連れて行けない。

【課題】

子育てしやすい環境にするため、両親共に育児に参加するような意識及び文化を醸成する。

○課題の背景

未就学児の子を持つ親を対象とした子育てサークル、子育て相談やイベントは平日開催が多く、平日働いている人には利用しにくい。

また、「母」「母子」の参加を想定されているものがメインで、父親が参加しにくい。

例：

・ふれあいの館

イベントカレンダーを確認すると、1月の土曜日企画イベントは無し。2月は総合避難訓練のみ土曜日に企画。

・子育てぽかぽか広場(常澄保健センター)

「子育てぽかぽか広場は、…毎回、お母さん同士の会話も弾んでいます。……」

そのほか、「母親同士」「お母さん同士」というキーワードが目立ち、関心があっても父親は参加をためらう。

【課題解決への取組】

図書館や芸術館において、芸術鑑賞中の託児サービスを実施する。1時間程度、有料のもの。これを隔週でも良いので、土日に行く。

なお、「近所の人にちょっと見ておいてもらう」程度の注意で子どもを見てもらえれば良い。

(参考)

県立図書館で2023年9月1日から11月23日まで木曜日に実施していた。

【課題解決への取組】

駅ビルの空きテナントに民間の室内遊戯施設運営企業を誘致する。これにより、天候を問わず、子どもが全身を動かして思いきり遊べる環境を整え、子連れで訪れたい場所とする(次ページ参照)。

【課題解決への取組】

以下の事例を参考に、水戸駅周辺において土日開催の親子向けイベントや子育て相談の機会を増やす。なお、実施にあたっては、父母ともに子育てに参加することを前提とした案内を行う。

これにより、平日に働く母親はもとより、父親も育児に参加するような意識及び文化を醸成し、共働きでも子育てしやすい水戸駅周辺にすることができる。

参考事例：

・(一社)茨城県助産師会「冬のほっこり育児相談会」

2023年12月16日(土)午後、水戸市民会館にて2部制で開催。対象は乳児をもつ親。育児相談・授乳相談・赤ちゃん計測など。

・(一社)ママリングス「こうとう子育てメッセ」

2016～2020年間で毎年日曜日・祝日などに開催。プレパパ・ママ向けの講演会や、子連れで聴けるシンポジウムなど。(一社)ママリングスは江東区と連携し、「脱“孤”育て」をかかげたさまざまな活動を実施している。

・埼玉県「お父さん日曜教室」

平成21年より月1回ずつ、連続4回開催。単なる子育てノウハウを伝える講座ではなく、ワークショップを通じて個々の気づき、及びそれをシェアすることによる全体の気づきを大切にする。父親支援＝母親支援＝子育て支援、すなわち母親が楽になるための講座を考案し、実施している。

・福井県勝山市「パパとあそぼう！」

平成27～29年度にかけて毎月第一土曜日に開催。パパにとって女の人が多く行きにくい、入りにくいイメージの支援センターを身近な存在と感じてもらいたいことを目指し、製作遊びや父親育児講座などを実施。

他、「平成30年度『地域における男性の家事・育児等参画促進施策の好事例』(内閣府男女共同参画局)において、約40の好事例が取り上げられている。

【課題】

子育てしやすい環境にするため、他者に頼れる雰囲気を醸成する

○課題の背景

子どもを常に親が見ていなければならないという圧力を感じる。

市の施設でも、子育て支援センターやわんぱくみとなど、家の中以上に子どもをずっと見ていなければならない。新しくできた市民会館も、おとなしく絵本などを読む子どもを前提に子ども向けスペースがつけられている。

【課題解決への取組】

「親は子育てにつきっきりになるのではなく、もっとリフレッシュして良い」というメッセージを発信する。併せて、そのために実施している支援をもっと積極的にアピールする（子育て支援センターの存在やその活動など）。

現状では、水戸市の「子育て支援」で本当に助けられたと思ったことがなく、全くリフレッシュできていないが、こうしたメッセージを発信していくことで、社会の雰囲気を変えていくことを図る。



参考 室内遊戯施設のイメージ

※Hi タッチらんど・ハレニコ！（日立市）
<https://hareniko.com/>

【提言6】高齢移住者に魅力的な歴史都市みと

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とする水戸市の中心市街地は、弘道館や水戸城跡地を始めとして歴史を感じられるとともに、生活の利便性が高い場所となっています。
- ・水戸市民は、歴史的資源をまちの宝と捉え、老若男女を問わず、生涯にわたって多様な形で水戸の歴史を学んでいます。歴史的資源を大切に扱うことを通してまちの活力が生まれていることから、特に高齢者が魅力を感じています。
- ・このまちでは、水戸ならではの魅力によって地域に対する愛着が生まれているとともに、高齢者から若い世代に水戸の魅力が伝わっています。そのため、水戸市は他のまちとは違う特別なまちと思われることから、移住・定住が促進されています。

このまちの魅力の一つは「高齢の移住検討者に水戸ならではの魅力が伝わるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

高齢の移住検討者に水戸の魅力を経験してもらうため、水戸の人や物に触れる機会を拡充する

【課題解決への取組】

高齢の移住検討者をターゲットとして、水戸市への観光と移住者との交流を兼ねたお試し移住体験会を実施する。

プログラム内容は以下のとおり。

- ・北関東で移住を検討している高齢者を公募する
- ・弘道館・水戸城跡をめぐり、水戸城御城印を配布する
- ・偕楽園で梅まつりの時期に水戸黄門一座などと写真を撮る
- ・鈴木茂兵衛商店の水府提灯作成ワークショップを行う
- ・水戸黄門一座などと写真を撮る
- ・高齢になってから水戸市に移住した方との交流会を行う



参考：ひたちなか市の事例

ひたちなか市では、移住検討者が移住先に求めるものをしっかりと事前にヒアリングし、オーダーに柔軟に対応した移住体験プログラムを提供しており、移住経験者や地元の方との交流会を開催している。

※ひたちなか市 お試し移住体験会
https://www.city.hitachinaka.lg.jp/hitachinakalife/l_kurashi/1010724/index.html

【提言7】「サステナブルに誰もが平等・公平に安心して、こどもを育てられるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とする水戸市には、こどもが健全に成長し、社会性を育むことができる文化施設や千波公園などがあります。また、子育て世代の働き口として大手企業があり、これらの環境を土台としてまちを発展させていく行政機関があります。
- ・水戸市民は水戸市が茨城県をリードすることを目標として定め、これを受け水戸市は他の市町村に先駆ける戦略的な政策を次々に実行しているため、水戸市を中心に県央地域を持続的に発展させています。
- ・水戸市は、広域的な視点から政策が打ち出され全国的に有名なまちとなっているため、転勤等により県央地域が勤務先となった人を中心に生活拠点として選ばれるまちとなっています。これらのことから、まち全体が持続的に発展しているため、移住・定住が促進されています。

このまちの魅力の一つは「経済が持続的に発展していくこと」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

市内の資金循環を強力にするため、「全ての」子育て世帯の支援を充実する

（詳細は次ページ表1のとおり）

【課題解決への取組】

児童手当等、子育て支援や結婚支援が目的となっている支援金等については所得制限を撤廃し、収入の多寡による支援の差を無くす。

これにより、所得再分配の政策から、子育て支援の政策にすることができる。

併せて、水戸市は公平な「子育て支援」を行っており、所得制限が無く誰でも支援を受けられることを広く周知する。

これらのことにより、県央地域付近で居住地を探す「全ての」子育て世帯が水戸市を居住地に選ぶ可能性を向上させることができる。

●参考事例

- ・東京都 018 サポート

都内に住む0歳～18歳までのこどもを対象に、月額5,000円を支給。（所得制限なし）

- ・明石モデル（5つの無料（すべて所得制限なし））

- （1）高校生までの医療費無料（受診の病院は市内外問わず）
- （2）第2子以降の保育料の完全無料化
- （3）生後3か月から満1歳まで、おむつ等を毎月配達（配達時に相談実施）
- （4）中学校の給食費無料
- （5）公共施設の入場料金無料

<https://www.city.akashi.lg.jp/shise/koho/citysales/kosodate/index.html>

表 1

第 2 表 各種世帯別にみた所得の状況

(令和 4) 年調査

	全世帯	高齢者世帯	高齢者世帯以外の世帯	母子世帯	児童のいる世帯	65歳以上の者のいる世帯
1世帯当たり平均所得金額(万円)	545.7	318.3	665.0	328.2	785.0	454.8
1世帯当たり平均可処分所得金額(万円)	418.1	268.2	504.8	258.8	608.1	355.0
世帯人員1人当たり平均所得金額(万円)	235.0	206.1	243.6	123.7	194.8	207.9
有業人員1人当たり平均稼働所得金額(万円)	333.3	207.5	348.9	267.0	385.9	250.0

持続的に水戸市が経済発展をするためには市内の資金循環を強力にする必要があるが、上の表のとおり、児童のいる世帯は所得が高いことから、この世帯から選ばれるまちとなり、この世帯を起点として経済を活性化させることが効果的であることが読み取れる。

※厚生労働省「2022年 国民生活基礎調査」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/14.pdf>

表 2

図IV-4 子育てをして負担に思うこと

	2020年 (%)				日本 (%)			
	日本 (n=1,372)	フランス (n=1,000)	ドイツ (n=1,022)	スウェーデン (n=1,000)	2020年 (n=1,372)	2015年 (n=754)	2010年 (n=1,248)	2005年 (n=1,115)
子育てによる身体の疲れが大きい	42.6	27.9	50.5	61.6	42.6	30.8	26.2	23.8
子育てによる精神的疲れが大きい	43.1	38.4	28.5	39.8	43.1	28.5	28.9	29.2
子育てに uitgave がかさむ	55.6	43.8	50.4	38.8	55.6	49.6	47.2	46.5
自分の自由な時間が持てない	46.0	23.6	32.8	28.5	46.0	41.5	41.2	42.4
夫婦で楽しむ時間がない	16.3	21.4	28.3	24.7	16.3	12.9	13.3	12.3
仕事が十分にできない	16.3	7.5	38.3	20.6	16.3	16.0	17.6	15.2
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	6.9	5.2	20.1	13.0	6.9	4.1	3.5	4.1
子供が病気のとき	33.0	28.2	34.2	41.5	33.0	36.3	35.7	36.3
その他	1.6	0.6	1.6	3.6	1.6	0.1	0.0	0.1
負担に思うことは特にない	8.7	21.2	10.4	8.1	8.7	6.0	6.4	11.0
無回答	0.6	0.3	0.5	1.2	0.6	3.8	3.6	3.6

注:「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

上の表から、子育て世帯は金銭的に負担を感じている割合が高く、近年その割合が上昇傾向にあることから、子育て世帯から選ばれるまちになるには金銭的支援が効果的であることが読み取れる。

子育て世帯は所得が高くても、こどもが多い場合等は子育ての金銭的負担は高い。

そのため、所得制限などによって支援に差を設けると、所得再分配になってしまい、「全ての」子育て世帯への支援にならなくなる。

※内閣府「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査」

https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/r02/kokusai/pdf/zentai/s2_4.pdf

表 3

●水戸市の世帯別納税表

							金額単位：千円
	課税標準額	所得税納税義務者（人）	総所得金額	1人当りの所得金額	課税標準額	1人当りの課税標準額	備考
I	10万円以下	60	210,722	3,512	11,911	199	
II	10万円超、100万円以下	1,319	2,233,285	1,693	740,849	562	
III	100万円超、200万円以下	936	2,747,836	2,936	1,541,089	1,646	
IV	200万円超、300万円以下	652	2,641,129	4,051	1,748,175	2,681	
V	300万円超、400万円以下	378	1,908,548	5,049	1,362,690	3,605	
VI	400万円超、550万円以下	282	1,754,702	6,222	1,320,222	4,682	市の結婚支援の非対象
VII	550万円超、700万円以下	133	1,051,164	7,903	818,031	6,151	〃
VIII	700万円超、1,000万円以下	128	1,301,320	10,167	1,054,006	8,234	児童手当の制限
IX	1,000万円超、2,000万円以下	129	2,093,173	16,226	1,796,434	13,926	児童手当の非対象
X	2,000万円超、5,000万円以下	70	2,312,915	33,042	2,164,789	30,926	〃
XI	5,000万円超、1億円以下	11	720,511	65,501	695,655	63,241	〃
XII	1億円超	9	1,590,005	176,667	1,569,629	174,403	〃
	総計	4,107	20,565,310		14,823,480		

出典：水戸市、課税標準額段階別令和4年度分所得割額等に関する調より、著者作成

上の表から、児童手当の非対象世帯の人口規模は約 5.3%である一方、経済規模は全体の約 32.7%であるため、この層の方たちが水戸市を生活拠点に選び、市内で経済活動を行えば水戸市全体の経済の活性化に効果が高いと考えられる。



東京都の子供・子育て支援

018 ゼロイチハチ サポート

都内在住の0歳から18歳までの子供を対象に
月額 **5,000**円（年間最大60,000円）を支給します

※東京都 018 サポート
<https://018support.metro.tokyo.lg.jp/>

【提言8】魅力，発信力のある水戸

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とする水戸市には，SNS などの他，市内のイベントや魅力などを市民間で広く共有できる情報発信ツールがあります。
- ・水戸市民は普段から SNS などによって得た様々な情報を日々の会話のきっかけにするとともに，それにより休日の過ごし方を決めています。特に，行政から発信される市内の情報は市民の興味をひく面白いものが多いため，その情報の影響力は大きいものとなっています。
- ・市内外問わず，スマートフォン一つで水戸市の魅力やほしい情報を仕入れることができるため，非常に生活のしやすく魅力的なまちになっていることから，移住・定住が促進されています。

このまちの魅力の一つは「スマートフォン一つで水戸市の魅力や情報が目につきやすく，生活がしやすいまち」であり，ここではこれを目指します。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

SNS 等で水戸市の情報が目にとまるようにするため，面白い動画などを配信する

【課題解決への取組】

水戸市が SNS 等で情報を発信する際にはエンタメ性を重視し，動画を多くする。

なお，配信にあたっては，インフルエンサーのように動画などで情報を配信することに特化した職員を配置する。または，情報発信に特化した職員採用試験を実施する。



参考：職員による情報発信の例

※農林水産省「BUZZMAFF ばずまふ」
<https://www.youtube.com/c/buzzmaff>



参考：エンタメ性のある情報発信の例

※京都市 交通局
<https://www2.city.kyoto.lg.jp/kotsu/vision/index.html>

資料

市政モニター活動内容

令和5年5月12日（金） 市政モニター委嘱状交付式及び第1回市政モニター会議

【委嘱状交付式】

- ・委嘱状交付
- ・市長あいさつ

【会議内容】

- ・水戸市からの説明
 - 「市政モニター及び今後の流れ等について」 市民相談室
 - 「水戸市の概要について」 政策企画課
- ・意見交換等
 - 「市政モニターによる自己紹介等」

令和5年6月8日（木） 第2回市政モニター会議

【会議内容】

- ・水戸市からの説明
 - 「市政モニター会議について」 市民相談室
 - 「水戸市の移住・定住促進のまちづくりについて」 政策企画課
 - 「市政モニター提言書作成マニュアルについて」 市民相談室

令和5年7月19日（水） 第3回市政モニター会議

【会議内容】

- ・水戸市からの説明
 - 「市政モニター会議について」 市民相談室
- ・意見交換等
 - 「水戸市の移住・定住促進のまちづくりについて」

令和5年9月1日（金） 第4回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換等
 - 「水戸市の移住・定住促進のまちづくりについて」

令和5年10月17日（火） 第5回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「水戸市の移住・定住促進のまちづくりについて」

令和5年12月4日（月） 第6回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 「提言の発表について」
 - 「提言書（案）について」

令和6年1月17日（水） 第7回市政モニター会議

【会議内容】

- ・提言の発表について

令和6年2月14日（水） 第8回市政モニター会議

【会議内容】

- ・提言書の提出・発表

市政モニター会議の様子

